

現高2生へ

2014 年に向けての【学習アドバイス】 世界史 B

I. 教科書に沿った学習

センター試験では悪問はほとんど見られず、教科書の範囲に収まる事項から出題されている。従って、まず対策として行わなければならないのは教科書の内容を正しく理解することであろう。センター試験の世界史Bでは、時代・地域・分野とも網羅的に出題されており、教科書の最初から最後まで完全に仕上げておく必要がある。何度も目を通して歴史の流れや個別事項の整理を早い時期に完成させておきたい。

II. 図版について

センター試験では必ず、中間を一つの単位として主題文とそれに関連する図版(建造物、彫像、絵画などの写真)が掲載されている。なかにはその場で初めて見るような図版である場合も少なくないが、だからといって難問になるわけではない。図版は解答する上での手掛かりになるものである。普段の学習の際には教科書の挿絵や資料集の図版などに意識的に目を通すようにしておくことも大切だろう。

III. 地図について

地図を活用した問題は例年通り 2013 年のセンター試験にも出題された。これは 2014 年入試でも踏襲される出題形式と思われるため、対策が必要となってくる。普段の学習の際、地名が出てきたら必ず地図帳や資料集などでその位置を確認しておきたい。都市の場合は位置を、国家の場合はその位置と大まかな領域の形や広がりなどをおさえておくといよい。都市や国家についての地理的な情報を蓄積することにより、歴史に関する知識の幅も広がることだろう。

IV. グラフ・統計について

毎年出題されるわけではないが、グラフや統計から事実を読みとる設問も見られる。グラフ・統計の読みとりはその場で出来るものばかりであり、難解なものはない。選択肢の内容とグラフや統計とを比較することで判断することが出来る。この出題形式に不安を感じるのであれば、日頃から教科書や資料集などのグラフや統計に目を通し、その情報が何を表しているのか読解する練習をしておこう。

V. 正誤問題

センター試験の出題形式で最も多いのが、正文選択あるいは誤文選択問題、すなわち正誤問題と称される出題形式である。空欄補充問題を解く時の手掛かりは、空欄の前後に配された語句であろう。歴史上の人物名や事象の名称は必ずキーワードと関連づけて覚えるはずである。正誤問題を解く場合も、人物名や事象の名称に関連するキーワードをピックアップして正誤判定の手掛かりにすればよい。

有効な対策は、人物にしても事件等にしても、普段の学習の中で一つでも多くのキーワードを含めて理解することに心がけることであろう。

できるだけ早い時期に、この問題形式に対する苦手意識を克服しておきたい。